



2025 年 10 月 10 日

各 位

会 社 名 株式会社シー・ヴィ・エス・バイエリア
代表者名 代表取締役社長 泉澤 摩利雄
(東証スタンダード市場・コード2687)
問 合 せ 先 執行役員管理本部長 寺 原 房 江
(電 話：043-296-6621)

第2四半期（累計）業績予想と実績との差異、
通期業績予想及び期末配当予想の修正に関するお知らせ

当社は、2025年4月11日に公表した2026年2月期の第2四半期（累計）業績予想と実績との差異、通期業績予想及び期末配当予想の修正について、お知らせいたします。

記

1. 第2四半期（累計）業績予想と実績との差異について

(1) 2026年2月期第2四半期連結業績予想と実績との差異（2025年3月1日～同8月31日）

	営業総収入	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 中間純利益	1株当たり 中間純利益
前回発表予想（A） (2025年4月11日)	百万円 4,543	百万円 292	百万円 168	百万円 109	円 銭 22.23
今回実績（B） (2025年10月10日)	3,974	22	46	△66	△13.42
増減額（B-A）	△569	△270	△122	△175	
増減率（%）	△12.5	△92.5	△72.6	—	
（ご参考）前期実績 (2025年2月期)	3,901	282	313	815	165.27

(2) 2026年2月期第2四半期個別業績予想と実績との差異（2025年3月1日～同8月31日）

	営業総収入	営業利益	経常利益	中間純利益	1株当たり 中間純利益
前回発表予想（A） (2025年4月11日)	百万円 2,461	百万円 240	百万円 135	百万円 94	円 銭 19.11
今回実績（B） (2025年10月10日)	1,873	△57	△30	△118	△24.02
増減額（B-A）	△588	△297	△165	△212	
増減率（%）	△23.9	—	—	—	
（ご参考）前期実績 (2025年2月期)	1,701	173	220	760	154.01

(3) 差異の理由

個別業績においては、コンビニエンス・ストア事業、その他事業については、売上高・利益ともに計画通りの堅調な推移となりましたが、ホテル事業については、新施設の開業や既存施設の営業再開により、事業投資及び設備投資の費用化が急速に進んだことに加え、国内宿泊需要及びインバウンドをめぐる市況感やトレンドの変化を十分に捉えた需要予測や販売コントロールに精彩を欠き、物価高騰や猛暑を背景とする旅行控えが加速した2025年6月以降、例年までの繁忙期における宿泊需要には大幅な減少が見られ、トレンドとなる時期にズレが見える状況下において、他社に先んじて顧客を獲得するための戦略的活動にも遅れが生じたことで、宿泊予約の鈍化が長期化する状況を早期に解消できず、客数やADR（販売した客室1室あたりの平均客室単価）が計画を大きく下回り、業績悪化を招きました。

連結業績におきましては、マンションフロント事業、クリーニング事業について、事業収益性の低い物件からの撤退や契約整理を継続的に進めているため、売上高につきましては当初計画を若干下回りましたが、利益については順調に推移し、当初計画を上回る結果となりました。しかしながら、個別業績の通期業績予想値を実績が大きく下回ったことから、差異が生じました。

2. 通期業績予想の修正

(1) 2026年2月期通期連結業績予想数値

	営業総収入	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A） （2025年4月11日）	百万円 8,896	百万円 568	百万円 378	百万円 247	円 銭 50.19
今回発表予想（B） （2025年10月10日）	8,031	167	89	△44	△8.96
増減額（B－A）	△865	△401	△289	△291	
増減率（%）	△9.7	△70.6	△76.5	—	
（ご参考）前期実績 （2025年2月期）	7,822	421	385	1,123	227.51

(2) 2026年2月期通期個別業績予想数値

	営業総収入	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A） （2025年4月11日）	百万円 4,727	百万円 457	百万円 311	百万円 215	円 銭 43.72
今回発表予想（B） （2025年10月10日）	3,842	27	△22	△113	△22.90
増減額（B－A）	△885	△430	△333	△328	
増減率（%）	△18.7	△94.1	—	—	
（ご参考）前期実績 （2025年2月期）	3,444	279	296	1,089	220.78

(3) 修正の理由

当第3四半期以降、季節の移行と秋冬の行楽シーズン突入を契機とする旅行控え解除の傾向が予約動向から見えるほか、同10月の万博閉幕以降、関東圏への宿泊需要の再流入や回帰の兆しが見える市況感の変化を踏まえ、顕在的な顧客ニーズに対する直接的なアプローチを行うことに加え、潜在的な

顧客ニーズを掘り起こすとともに、顧客満足に直結する各種イベントの充実や新規企画、既存サービスのブラッシュアップや新たなサービスプランの提供、付加価値創造によるブランディングの強化に取り組むことで、事業安定性の担保と事業成長性の追求、事業収益の恒常的確保に努め、事業の立て直しに注力いたします。一方で、施設の新規開業を起点に事業投資及び設備投資の費用化が急速に進んだ影響から事業収益を圧迫する状況が一定期間続く見込みであること、高止まりが続く物価や人件費の高騰を背景とする原価コストのさらなる上昇も十分に視野に入れるべきであることから、期首計画を見直し、通期業績予想値の修正を行うものです。

連結業績におきましては、マンションフロント事業、クリーニング事業について、事業収益性の低い物件からの撤退や契約整理を継続的に進めているため、売上高につきましては当初計画を若干下回りましたが、利益については順調に推移し、当初計画を上回る結果となりました。当第3四半期以降も売上高・利益は計画に即し堅調に推移する見通しであるため、マンションフロント事業、クリーニング事業については、期首計画の見直しは行わない整理ですが、個別業績の通期業績予想値を大幅に修正した影響から、通期業績予想値の修正を行うものです。

3. 期末配当予想の修正

(1) 修正の内容

	年間配当金 (円)				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
前回発表予想 (2025年4月11日)	円 銭 —	円 銭 13.00	円 銭 —	円 銭 13.00	円 銭 26.00
今回修正予想 (2025年10月10日)	—	—	—	10.00	10.00
当期実績	—	10.00	—		10.00
(ご参考) 前期実績 (2025年2月期)	—	10.00	—	13.00	23.00

(2) 修正の理由

当社は、将来における安定的な企業成長と経営環境の変化に対応するために必要な内部留保の充実を考慮したうえで、株主の皆様に対する利益還元の観点から安定配当を行うことを基本とし、剰余金の配当を実施する方針としています。

しかしながら、2026年2月期の間配当金は、最近の業績を踏まえ、2025年4月11日に公表の配当予想から1株あたり3円を減額し10円とすることを、2025年10月10日に開催の取締役会にて決定しております。同期末配当金につきましても、通期業績予想において、個別・連結ともに、純損失を計上する見込みであることや財務状況等に鑑み、2025年4月11日に公表の配当予想から1株あたり3円を減額し10円とさせていただきます。

(注) 上記の予想は、本資料の発表日現在において、入手可能な情報に基づき、作成したものです。今後様々な要因によって、予想数値と異なる可能性があります。

以 上